



幼児教育センターだより

富山県教育委員会 教育みらい室 小中学校課
富山県幼児教育センター

8月に行われた市町村の幼保小接続合同研修会のうち、幼児教育センターから参加した研修会の様子を紹介します。

射水市 幼保小接続合同研修会

【実施日】8月7日（木）
【参加者】市内の幼児教育施設
小学校から

【内容】

1. 富山国際大学 河崎教授の講演
演題：『園と学校をつなぐ架け橋プログラム
—「育ち」をつなぐまなざしの共有—』
2. 校区ごとの協議



講演では、「架け橋プログラム」が子ども一人一人の育ちと歩みを繋ぐために大切であることを分かりやすく教えていただきました。その後、小学校区ごとに幼保小の先生が顔を合わせ、共に育てたい子どもの姿を共有し、その具体策について活発に意見交換を行いました。

黒部市 幼小接続研修会

【実施日】8月19日（火）
【参加者】市内の幼児教育施設
小学校から

【内容】

1. 1年生担任の実践発表
2. 新夕接続
スーパーバイザーの話
3. グループ協議



市内の幼児教育施設と小学校が勢ぞろいしました。1年生担任の実践発表を基に、グループ協議では「自分なら、幼児期の学びを小学校教育にどのようなつないでいくか」などについて、熱心に話し合いました。

富山市 和合中学校区 要請訪問

【実施日】8月20日（水）
【参加者】和合中学校区の
幼児教育施設
小学校、中学校から

【内容】

1. 新夕接続
スーパーバイザーの話
2. グループ協議
テーマ：「幼・保・小・中
接続の在り方について」



幼・小・中の教員と一緒に協議をしました。保育者は「主体的・対話的で深い遊びはどのように生まれるか」、小・中の教員は「主体的・対話的な学びを実現するために日頃行っている指導」について話し合いました。幼・小・中と子どもの学びはつながっていることを再確認しました。



架け橋期の教育の充実を目指して



市町村で幼保小接続に関わる研修会が数多く実施されており、受講者に応じた研修となるよう内容が工夫されています。市町村の取組は、実態に応じて考えられ、担当しておられる方々の「幼保小接続が持続的なものとなるにはどうしたらよいか」という思いが感じられます。

今年度、いくつかの市町村が、保育者と小学校教員の合同研修会を実施しました。

グループ協議では、1年生の子どもの様子を語り合いながら、「幼児教育で行われていた支援を取り入れることで、その子どもの伸びをさらに支えることができるのでは」「小学校で、あの子どものよいところが伸びているのがうれしい」など、話が尽きませんでした。

そのうち、次のやり取りが聞こえてきました。
保育者「思い切り遊び込む中に学びがあると思います。」
教員「でも、小学校の長休みは20分だけです。」

ここからは、「遊び」の捉えに違いがあることが分かります。互いに使い慣れた言葉ですが、それぞれの捉えを共通理解することは、それぞれの保育・教育に対する理解を深める方法の一つだと考えます。

「わくわく・きときと接続ガイドⅡ」の見開き部分に、幼と小でイメージが異なる言葉の事例が載っています。合同研修等の折に、ぜひ参考にさせていただけたらと思います。



〈9月の主な予定〉

- 2日(火) 第5回新規採用教員研修会
- 3日(水) 架け橋プログラム推進部会
- 9日(火) 第4回幼児教育接続研修会
(富山市立西田地方小学校)
- 17日(水) 第3回幼児教育接続研修会
(堀川幼稚園)
- 24日(水) 第6回新規採用教員研修会
- 30日(火) 第3回幼児教育接続研修会
(津沢こども園)

【接続研修会について】

第3回及び第4回は、県内3地区で実施しています。園と小学校の両方を参観し、幼保小接続について協議する予定です。



園内研修いろいろ

これまで行われた訪問研修の事後研修会の中から、「参加者の発言を引き出す」研修会となるよう、工夫された方法を紹介します。

- ① 協議の視点の明確化
いろいろな気付きを話したくなるのですが、視点を絞っておくことで、発言しやすくなることがあります。視点の決め方はいろいろです。協議のねらいに合わせてます。
- ② 付箋の紹介
意見や感想等を書いた付箋を紹介する時間を確保することで、全員に発言の機会が保障されます。
- ③ 事前にアイスブレイク
簡単なゲーム等を行い、笑顔が生まれるような雰囲気の中で協議をスタートすることができます。
机の有無や互いの距離の工夫等によっても、緊張感がほぐれ、発言が増えることがあります。